

札幌地裁 名和氏の訴えを棄却

北大前総長の解任取消訴訟



判決を聞き終え、地裁前で報道陣の前に立つ名和氏と弁護団ら。左から3人目が名和氏(13日)

3月13日、およそ4年前に解任された北大の前総長・名和豊氏が北大・国に対し解任処分取消と損害賠償を求めた訴訟の判決が、札幌地裁で言い渡された。判決は原告の請求を棄却するもので、北大・国側の主張が全面的に認められた形だ。

今回の訴訟は、2020年6月に総長を解任された名和氏が同年12月に処分の不当性を訴えたもの。文部科学省は総長選考会議からの申し出に基づき名和氏による28件の非違行為(パワハラ行為など)を認定して解任

に踏み切ったが、同氏がこれに反発した。

判決では、北大・国側の主張が全面的に認められた。裁判では非違行為の存在と解任手続の正当性が争われたが、判決では実際に非違行為が存在し適切に解任がなされたとする北大・国側の主張を認容。右田晃一裁判長は、判決文で「本件解任申出及び本件解任処分が認定した非違行為及び評価は正当」とした。

名和氏側が開いた会見では、支援者から判決に不満の声も。名和氏の代理人を



4月号

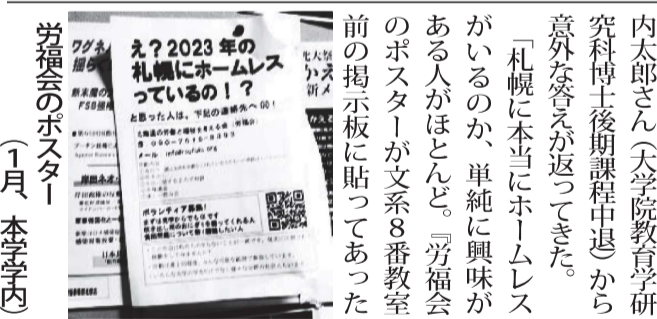
無料 [Take free]
編集・発行
北海道大学新聞編集部
ウェブサイト
「THE MAINSTREET」
hokudaishinbun.com
Twitter (@HokudaiShinBun)
次の発行予定は6月(ウェブ上)

CONTENTS

- 札幌のホームレスととも24年...2面
- 「感謝の解剖」からつながるもの...3面
- エルクの杜から旅立ち卒業式...4面

北海道の労働と福祉を考える会

地下鉄を降りて1限の講義へと急ぐ、その道にも友達と過ごした楽しい休日、帰り道にも。私たちが通り過ぎるその道に路上生活者がいることを、知っているだろうか。そして、札幌で暮らす彼らを、本学の授業をきっかけに発足した市民団体「北海道の労働と福祉を考える会」(以下、労福会)が20年以上支援し続けてきたことも。今回は、学生がホームレスを支援する意義を考える。専門家に比べればできることは少ないのに、活動に携わるのはどうしてか。



「ポスターが、一番イケてなかった」北大生をはじめとする大生が中心となって運営されている、労福会。学生たちは、どうして参加したのか。困っている人の支援がしたい人が多いのかと思っ

北海道大学白菊会 「感謝の解剖」からつながるもの

解剖に不可欠な献体が、減っている。医療に関わる職を目指していない読者には、献体や解剖実習に対して関係の薄さを感じるかもしれない。しかし、医療はあらゆる人に一生関わり続けるものだ。医療系の学部において行われる「解剖学実習」に必要な献体の数が減少している背景と、本学白菊会の取り組みについて取材した。



「「献体」が学生のもとに届くまで、届いてから一部の医療系学部のカリキュラムに、「解剖学実習」というものがある。2年次において、4人の学生が1つの班となつて、人体の構造を学ぶために「正常解剖」を行う。

こうした篤志献体を行うための組織が、各大学にあって、生前に、死後に献体をする意思のある会員が入会する。会員が死去すると、運ばれた遺体には防腐処理が施され、解剖実習を行う医歯学生のもとへ届けられる。解剖を終えた献体は火葬場へと運ばれ、遺骨となつて遺族のもとに帰る。こうした過程を、管理するのだ。

北大エリアにも無料送迎バスが来てる

オンライン 学科教習 実施中!

桑園自動車学校

札幌市中央区北8条西14丁目 ☎011-271-7511

北大の「今」を発信中!

ウェブサイト (THE MAINSTREET) Twitter (@HokudaiShinBun)

THE MAINSTREET Powered by 北海道大学新聞編集部

北大生の死亡事故を受けて

ヒグマとの共生を考える

ヒグマ取材班



2023年10月、北大産学部4年の学生が、北海道松前郡の大千軒岳で遺体となって発見された。ヒグマに襲われたとみられている。北大新聞では、この悲惨な事故を風化させないため、事件やヒグマについて報道を行っている。11月には道内の大学生向けにヒグマに関する認識調査を実施し、調査結果をもとに北大産学部学生支援課に学生生活に関わるヒグマの問題への対応状況を取材した。

また、大学当局に対してもヒグマに対する危険性などのアナウンスが不十分であると59%の人が感じており、メールでの注意喚起やヒグマ問題を扱う授業の開講を

求める声が上がっている。一方で、学生支援課は北大新聞の取材に対し、事故を受けたメールでの注意喚起は「重大で北大への影響が大きいものであっても被害者や被害者の関係者の心情を考え、実施しなかった」と回答している。また、今まで開講されていたヒグマの生態やクマ駆除について学ぶ「ヒグマ学入門」が昨年度は開講されなかった理由については具体的に回答しなかった。

報道に対しては、危険性を周知を求める声。望ましいヒグマ報道のあり方については、危険性を周知するべきだという声が多く聞かれた。駆除にクレームを入れたりクマに同情したりする人が現れないようにするべきだ、という意見だ。現在は、札幌市に対してはその危険性を理解していない人々から「ヒグマを駆除するのとはかわいそう」「保護するべき」といった苦情が相次いでいる。こうした苦

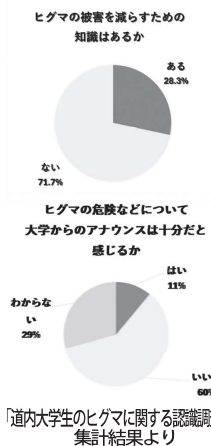
情に対しては、人命が奪われる事態に繋がりがかねない懸念する学生が多いようだ。我々がヒグマとともに暮らすためには、一人一人がヒグマは我々の命を脅かす存在であることを理解した上で、ヒグマに遭遇した際には適切な対処を行う必要がある。そのために、ヒグマの危険性を強く警告した上で、遭遇した際の正しい対処法を周知するような報道が求められるだろう。北

大新聞では、今後専門家などに取材をして、ヒグマの生態や遭遇時の適切な対処法を探っていく予定である。

(取材・野中・高橋・宇高 執筆・赤松)

ヒグマ遭遇時の対処法 7割は知らず

調査の結果によれば、97%の学生が今回の事故に



から、ヒグマに関して読みたい記事として、ヒグマに遭遇したときの対処法を挙げる意見が最も多かった。

北大発の市民団体、札幌のホームレスとともに24年 北海道の労働と福祉を考える会

すつて言われて、肩を落とした帰り道に泣き出しつつおちゃんに慰められたりする。プロがやったら大問題だけど、学生だったらこれが許されるんだよ「炊き出しで、よく文句が出るんだけど、僕らつてそういうことが言える関係で、単純に「支援する側」「される側」じゃない。あんまり言われるとこっちは精神的にぐちゃぐちゃいけど、ホームレスの隣でつてのは労働会つぽさかもしれない」取材した「炊き出し」で、ある生活困窮者が「この炊き出しは「施しを

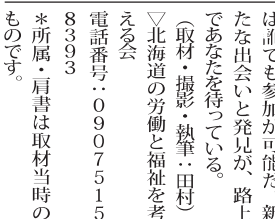
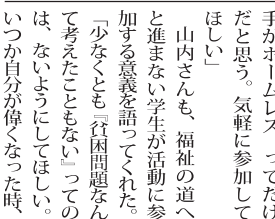
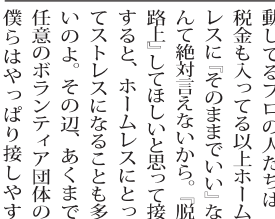
「公的な援助ももらって活動してるプロの人たちは、税金も入ってる以上ホームレスに『そのままいいな』『脱して絶対言えないから』『脱して絶対言えない』って思ってる。ホームレスにも多任意のボランティア団体の僕らはやっぱり接しやす

い。20年以上、毎週のようにホームレスと話し続けてきた。築いてきた信頼関係は、やはり強い。専門家は、やはり強固な支援の形が、そこにあつた。最後に、北大生へ伝えたことを聞いてみた。阿さんは「まだ前だと思つて、自分の生活のありがたみを、実感できるように」

世論はときどき暴走するけど、そこでフツと学生時代に話したおじさんの顔が浮かぶ人間でいてほしい」毎月第1〜第3・第5土曜日に行われる労働会の夜回りには、事前に連絡すれば誰でも参加が可能だ。新たな出会いと発見が、路上であなたを待っている。

(取材・撮影・執筆・田村) 北海道の労働と福祉を考える会 電話番号・09075158393 *所属・肩書は取材当時のものです。

ホームレスの「となり」では、彼らはどうするのか「例えば、路上のおっちゃんや生活保護の申請に行ってる。申請なんて、もちろんしたら門前払いする様な場合合ったりするから役所の人にダメで



北大入試対策なら河合塾

北海道大学合格実績 2023年度 北大 合格実績 圧倒的No.1

648名※1

※1 この合格実績は、河合塾グループ関連法人の有籍生および講習受講生の2023年度入試の合格者を集計した総人数であり、公開試験のみの変換生は含んでいません。

2023年度 北大 合格実績 圧倒的No.1

※2 2023年度合格実績をwebサイト・パンフレットで公表している予備校の中でNo.1 (カワハウスコンサルティング株式会社調べ)

高校グリーンコース 入塾受付中 河合塾 札幌校

私には私の勝ち方がある。

どんな道でも、道は道

「おもしろい成川は、どこにいてもおもしろい成川や」



成川航斗さん(文学部3年)



どんな道でも 道は道

「大学には、いろんな人がいる。そんな中、誰しも一度は耳にしたことがあるだろう。だが、私たちはまだ、いろんな北大生が北大生になった時の話を知らない。聞いてほしい。その過程を追った。」

成川さんという面白い北大生がいる。入っているサークルの数を、よく覚えていない。成川さんのことだ。「おもしろいことに、ほとんど挑戦する成川さんは、一週間でもサークルへの出席回数が10回を超えることも。一方で、成川さんを講義室で見ない日はない。時間割を見せられても、授業が一杯に並んでいる。専門の人類学の必修科目、学芸員と教員の免許の取得に向けた科目、さらに集中講義や履修登録して

いない講義の科目を合わせると、2年生の1年間で計88単位も履修したことになる。平日は1限から5限までの朝の8時45分から5限が終了する夕方の18時まで毎日授業を受けていた計算だ。これは活動的で勉強熱心な成川さんほどのような受験を経て北大で学んでいるのだろうか。

後期試験入学者 5人に1人は 「北大合格者数〇〇〇人」札幌前の広告に躍る数字が通行人の目を引く。北大は「あこがれの大学」だと思われがちかもしれない。その一方で、こうした広告には東大の合格者が並んでいることも多い。北大は時々「下」に見られるのだ。そして、北大生も北大生下に見えることがある。前期試験では第一志望の他大学に不合格となり、後期試験で合格した北大へ入学する学生も多いからだ。後期入試の募集人数が他の国立大と比較して多い北大では、令和5年度の全入学者25

25人中465人と、全体の約18.3%が後期入試で入学している(記者算出)。3月の初めには第一志望の大学の周辺でマシジョンを探していた記者自身もまさか1か月後に心の整理もつかぬまま札幌で1人暮らしを始めることになると思っても奇らなかった。成川さんはまさにそのような受験履歴を持つ2人だ。成川さんの出身校は東大や京大、医学部の進学者が

で文系クラスに進級すると、学年上位層に名を連ねる。「席次は15番前後。洛南の文系では上位20人が東大と京大に現役で受かる」と考えられていた。順当にいはば京大に受かるだろう、と考えるのも無理はない。迎えた高校3年生。塾には通わず自分自身で勉強した。そのためか、「京大の過去問は2年分しか解かなかったし、本番まで受験クニックとせいいうものをほとんど知りませんでした」。しかし、大手予備校が実施する「冠模試」(全受験校別に特化した模試)では結果は振るわなかった。2021年の共通テストでは9教科で74.8点を獲得したが、京大志望者の中では良い点数とは言えなかったため、文

学部より合格の可能性が高かった法政大へ出願する。前期試験本番を終えたが、結果は不合格。「ワンチャンあるかも」と思っていたが、得点力不足はカバーできなかった。「本気」の浪人生活 京大に進学する思いが強かった成川さんは浪人を決める。8月に実施される「冠模試」を本番と想定し、4月7日に集中的な勉強生活を送った。右下の表が成川さんのこの期間の一日のスケジュールである。一日の勉強時間は多い日で17時間に及び、平均14時間を受験勉強に当てていたという。

2日目にわたって行われる京大の二次試験。積み上げてきた実力とは裏腹に、会心の出来とはならなかった。1日目の国語では、直前の移動中に車酔いし、万全とは言えない状況ではあったが、上々の手ごたえだったと話す。一方、午後の数学は難易度が「易化」し、試験終了後に気づいた計算ミスにより、差がついたかもと危機感を覚えた。2日目の英語はまずまずの出来だったが、「日本史は「難化」し、「できたのが国語しかない」と不安にならざるを得なかった。その一方で、共通テストの判定も悪くないし、そして何より冠模試でよい判定をとれるくらい頑張ったんだと自分を落着かせた。

前期試験に合格した志願者は、ここにはいない。試験場には空席が目立った。文学部の後期試験は形式が変更されたため、過去問もないまま本番を迎えることになった。もちろん後期試験に向けた対策はほとんどしてない。北大文学部の初的小論文試験では英文の和訳問題も出題されたが、難なく解くことができた。京大入試のために英語の勉強をしてきたから、問題は2周以上解けた。

「自分の受験は終わったそうつぶやくと同時に、「ずっと悩んでいたた病むだけ」と割り切って、スーパードライスを片手に伊丹から新千歳飛行機の飛行機へ飛び乗った。3月の札幌はまだ白銀の世界。北大植物園近くのホテルから文学部後期試験が行われる工学部棟まで約2キロメートルを歩いた。雪の降り積もったキャンパスを前に、不思議と入試に落ちた悲壮感ほとんどなく、北の景色に心を奪われた。

有名進学校を卒業後、1年間猛勉強し再チャレンジするも不合格。進学後、北大への不満を抱え、プライドが傷つき、精神的に追い詰められた成川さんが現在のようになるまで何があったのか。北大という環境がもたらしたものは? 続きは北大新聞ホームページで(取材・執筆・高野)

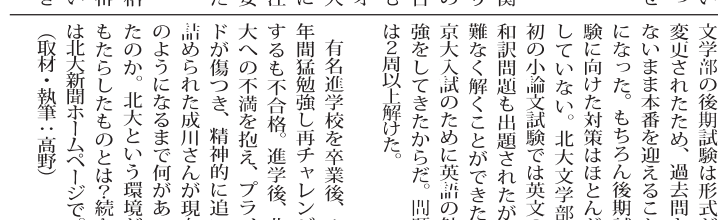
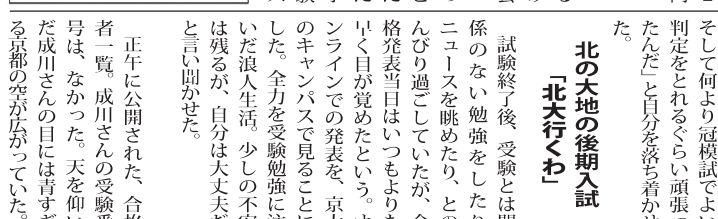
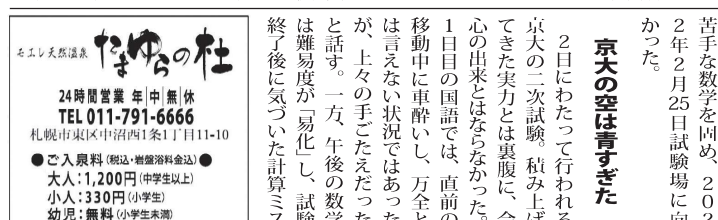
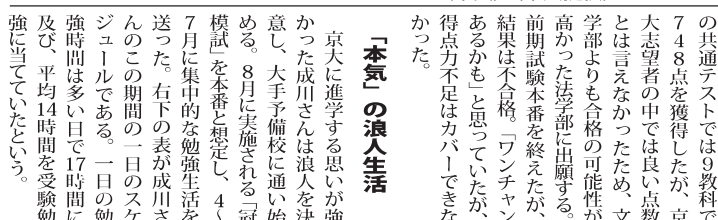
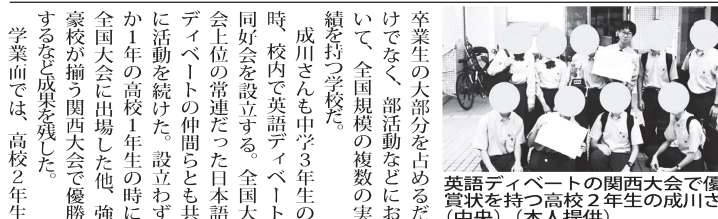
「北大の空は青すぎた」 2日目にわたって行われる京大の二次試験。積み上げてきた実力とは裏腹に、会心の出来とはならなかった。1日目の国語では、直前の移動中に車酔いし、万全とは言えない状況ではあったが、上々の手ごたえだったと話す。一方、午後の数学は難易度が「易化」し、試験終了後に気づいた計算ミスにより、差がついたかもと危機感を覚えた。2日目の英語はまずまずの出来だったが、「日本史は「難化」し、「できたのが国語しかない」と不安にならざるを得なかった。その一方で、共通テストの判定も悪くないし、そして何より冠模試でよい判定をとれるくらい頑張ったんだと自分を落着かせた。

前期試験に合格した志願者は、ここにはいない。試験場には空席が目立った。文学部の後期試験は形式が変更されたため、過去問もないまま本番を迎えることになった。もちろん後期試験に向けた対策はほとんどしてない。北大文学部の初的小論文試験では英文の和訳問題も出題されたが、難なく解くことができた。京大入試のために英語の勉強をしてきたから、問題は2周以上解けた。

有名進学校を卒業後、1年間猛勉強し再チャレンジするも不合格。進学後、北大への不満を抱え、プライドが傷つき、精神的に追い詰められた成川さんが現在のようになるまで何があったのか。北大という環境がもたらしたものは? 続きは北大新聞ホームページで(取材・執筆・高野)

有名進学校を卒業後、1年間猛勉強し再チャレンジするも不合格。進学後、北大への不満を抱え、プライドが傷つき、精神的に追い詰められた成川さんが現在のようになるまで何があったのか。北大という環境がもたらしたものは? 続きは北大新聞ホームページで(取材・執筆・高野)

有名進学校を卒業後、1年間猛勉強し再チャレンジするも不合格。進学後、北大への不満を抱え、プライドが傷つき、精神的に追い詰められた成川さんが現在のようになるまで何があったのか。北大という環境がもたらしたものは? 続きは北大新聞ホームページで(取材・執筆・高野)



THE MAINSTREET 北海道大学新聞編集部 新メンバー募集中! 話題の人に出会える!? 北大の「今」がわかる! 文理問わず大歓迎!! ぜび、北大新聞 活動に興味を持った方は、ぜび新卒お誘いください! Google Formの回答お待ちしております! (対面またはzoomで部員から、直接北大新聞のリアルを聞こう!)

北海道大学白菊会 「感謝の解剖」から つながるもの (1面から続く)

解剖学実習が学生に与える影響は大きい。「大学を卒業して医師・歯科医師になっても、解剖学実習だけは皆覚えている」と語るのは、本学白菊会の事務局代表を務める、本学医学院解剖発生学教室の渡辺雅彦特任教授だ。

「教科書の図を見ていてもわからないことでも、解剖をやって初めて理解できることはたくさんある」 実習初日はどの学生も献体にメスを入れることをためらうが、2日目からは本物の筋肉や臓器を観察できる機会の貴重さを自覚して、人体の構造への純粋な興味を持ち実習に臨めるようになるという。

「感謝の解剖」から 学問のための解剖は開学以来行われてきた。しかしその間には、正常解剖に対する社会的認識の大きな転換があった。

日本が明治維新を迎える少し前から、解剖は行われていた。しかし長い間、刑死人や、遺体の引き取り手のない行路病者など、いわゆる社会的弱者とも呼ばれる人々の遺体を解剖に用いることが一般的であり、「懲罰の解剖」とも表現されることがあった。

それを、「感謝の解剖」にし

なければならぬという動き、「献体運動」が1950年代にはじまった。献体を希望する本人と家族の同意(生前同意)が必要とされるようになった。

「感謝の解剖」とは、「社会的に感謝される解剖」のことだ」と渡辺特任教授は話す。「白菊会に入会するきっかけは人生の種類だけあるだろう」。それでも、人生の終わりを考えたときに「自分の身体を役立ててもらいたい」と願う気持ちは會員に共通している。その思いを学生が受け取り、真摯に解剖に臨む。それはやがて、彼らが医師・歯科医師となるときに、きつと国の医療への安全安心となる。つまり、一市民、一国民の篤志がよりよい医療へつながるのだ。まさしくそれは「感謝の解剖」である。

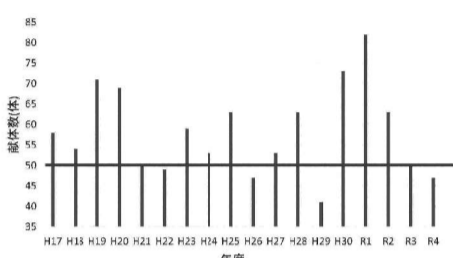
献体運動が始まった最初の20年間は、社会的認知度も低かったが、解剖学関係者による懸命な普及活動の結果、90年代になると解剖に用いる遺体のほとんどが献体によるものになった。

以後「30年のあいだは、解剖をやってきて、献体不足という状況を経験したことがなかった」と渡辺特任教授は言う。

新型コロナ流行がもたらした献体不足の危機 安定して学生に献体を提供でき、解剖学実習を行うことができた。その理想的な状況が新型コロナウイルスの流行によって揺らいだ。

「先人が日本に築いてきた『感謝の解剖』が自分たちの代で崩れるようなことがあってはならない」と渡辺特任教授は2023年11月には、本学から広く社会に向けた情報発信である、プレスリリース「献体登録に対するご理解とご協力をお願い」地域医療の未来を支えるために「の発表に踏み切った。大きな決断だった。

「先人が日本に築いてきた『感謝の解剖』が自分たちの代で崩れるようなことがあってはならない」と渡辺特任教授は2023年11月には、本学から広く社会に向けた情報発信である、プレスリリース「献体登録に対するご理解とご協力をお願い」地域医療の未来を支えるために「の発表に踏み切った。大きな決断だった。



各年度の献体数の推移

「先人が日本に築いてきた『感謝の解剖』が自分たちの代で崩れるようなことがあってはならない」と渡辺特任教授は2023年11月には、本学から広く社会に向けた情報発信である、プレスリリース「献体登録に対するご理解とご協力をお願い」地域医療の未来を支えるために「の発表に踏み切った。大きな決断だった。

「これから」

渡辺特任教授は「これまで、国民の医療への安心安全という意味で、医学部・歯学部での学生教育としての解剖というものがあつた。昨今はそれだけでなく、医師・歯科医師のトレーニングや、新たな手術法の開発などにも献体を使った取り組みが始まっていて、献体の重要性がより一層増している。献体という取り組みがあるということ、多くの人に知ってもらいたい」とメッセージを送った。

自分の死後、身体を医学のために献体として提供するという人がいること。その篤志を汲み、理解し生前の遺志をかなえる家族や遺族がいること。学生に献体を届けるために尽力する人がいること。そして将来医療人となるため、懸命に解剖と向き合う学生。やがては彼らがまた別の命や健康を守るだろう。その「つながり」に思いを馳せてみてほしい。

なお、献体登録に関する情報と、本学白菊会への問

えるむ歌壇

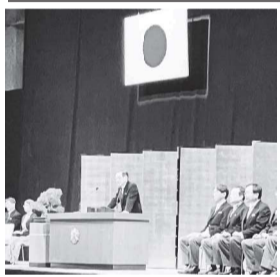
【第十回】

或いは、この春のために / ササキカツヤ
嗚呼ネモフィラ みづかろの死に手向けむとおまへは空色(セルリアン)の花を
季節はしづかに湖水のうへを滑るだらう プロメテウスが花を盗めば
春風がふいに吹き来て古本を捲つたやうに、恋でした。
安心していい 真青ではないけれど水色の春もきつと綺麗だ
春の緑 この世のものでもないやうなイベリスもまた枯れゆきにけり
い合わせは、本学ホームページを参照
(取材・執筆:品村 撮影:高野)

提供:北海道大学短歌会

エルムの杜から 旅立ち 卒業生ら4437人 —2023年度卒業式—

2023年度の学士・修士・専門職・博士学位記授与式(卒業式)が25・26日に行われ、12学部と現代日本学プログラム課程の学部生2423人、大学院生ら2014人がエルムの杜から旅立った。札幌キャンパスの第一体育館では25日、水産学を除く11学部と現代日本学プログラム課程の卒業式が行われ、2233人がキャンパスを巣立った。



告辞を述べる宝金総長

同日、第二体育館では修士・専門職・博士学位記授与式が行われ、水産科学院を巣立った。宝金清博総長は告辞で、今回の卒業生の学年が「コロナ禍」と完全に重なり、この間「ウクライナ情勢をはじめ」世界情勢は劇的に変化した」と振り返った。生成系AIが世界に与える影響についても言及、「後世必ずや、世界の在り方の根幹を大きく変えた科学技術として振り返られるはずだ」と述べた。また、クラーク博士を挙げ「学びを続け、挑戦を続け、勇気をもって、この困難な時代を堂々と歩んでください」と卒業生らを激励した。

卒業生の声

(くろくろ)さんは、「交響楽団で活動している中で、良い友人と出会い充実した大学生活を送ることができた」と話した。卒業後は他大学で感染症やウイルスの研究に携わる予定で、「留学生と話す機会も多いので、英語の勉強も頑張りたい」と意気込んだ。(取材・撮影・執筆:高野)

北大キャンパスガイド

北海道大学のCampus Guide 北海道大学総務企画部 広報課・北海道大学生活協同組合編 受験生に新入生、北海道大学に関心を持つすべての方々へ、北大キャンパスを楽しむためのガイドブック。【好評発売中】1980円

大学のハラスメント相談室

ハラスメントと向き合うすべての人へ 櫻井義秀・上田純一・佐藤直弘・柿崎真実子著 北海道大学ハラスメント相談員が大学のハラスメントを中心に「ケース・事例・裁判例」のほか、北大における相談室設置運営の経緯等を紹介。【好評発売中】2640円

大学のカルト対策

「カルト問題のフロンティア」 櫻井義秀・大畑 昇編著 大学におけるカルトの実態を紹介。【好評発売中】2640円

カルトからの回復

「カルト問題のフロンティア」 櫻井義秀編著 カルト脱会者の心の回復・支援を考える。【好評発売中】3520円

死者のカルシッコ

「福文叢書6」 フィンランドの樹木と人の人類学 田中佑実著 フィンランドの忘れられた風習「カルシッコ」をめぐる物語。いまや終わってしまったと思われていた風習を担い続ける家族と過ごした著者が、フィールドワークの記録を通じて、カルシッコとともに生きる家族の想いと暮らしを描く。【好評発売中】6380円

教材憲法判例 第5版追補版

中村睦男・常本照樹・岩本一郎・齊藤正彰編著 定評ある判例教材の最新版。基本判例の原文収録という初版の編集方針を維持し、第5版の30テーマ60判例を軸に、「コメント欄」で新判例の動きを捉え、関連判例も追加、文献情報も更新した追補版。【新刊】3520円

ヒグマ学への招待

「自然と文化で考える」 増田隆一編著 学際的にヒトと自然の関係を考える「ヒグマ学」を通じて、生態系でのヒグマの役割、文化の中で果たしてきたヒグマの役割を考える。【好評発売中】3960円

地球惑星科学入門 第2版

在田一則・竹下 徹・見延庄太郎・渡部重十編著 2010年の初版刊行以来、好評で増刷を重ねている「基礎地球惑星科学」の教科書の第2版。【重版出版】3300円

日本産ゴキブリ全種図鑑

小松謙之・伊藤くお著 日本に生息・記録されている全65種7亜種(2023年3月7日現在)に、最近発見のあるベッコウチ8種を加えて73種7亜種を収録したカラー1冊。【重版出版】4950円